

広島市立広島市民病院の HIV診療の現状

広島市立広島市民病院 内科
野田昌昭

広島県のエイズ拠点病院

広島市立広島市民病院



広島大学病院



国立病院機構
福山医療センター

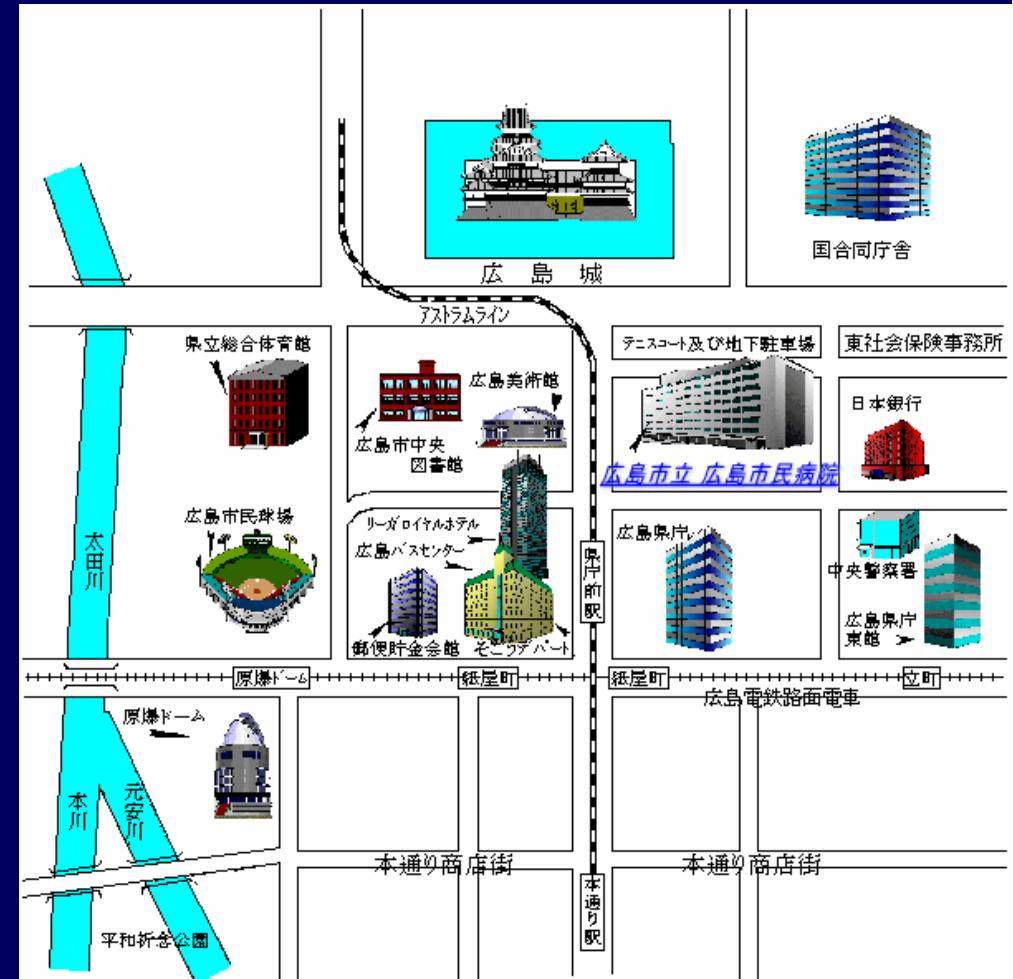
国立病院機構
呉医療センター



県立広島病院

- * 広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院の3病院が、1997年～中国・四国地方のブロック拠点病院
- * 県立広島病院、広島市立広島市民病院は2007年6月から広島県の中核拠点病院も兼任

- 広島市の中心街に位置する県内有数の基幹病院
- エイズ診療ブロック拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院、ERなど
- 診療科目：25科
- 医師数：197人(研修医含む)
- 病床数：758床



広島市民病院のHIV感染症の診療経験(1)

- 1997 広島大学医学部附属病院、県立広島病院とともに中国四国地方のブロック拠点病院に指定。当院にとって初めてのHIV感染者(20代男性)が保健所から紹介受診。
- 1999 新宿の検査センターでHIV陽性を指摘された30代男性が自ら当院を受診。
- 2000 30代男性AIDS患者(食道カンジダ症)が、他院より紹介転院。
- 2002 重症結核で入院していた50代男性がAIDSであることが判明。結核は改善傾向を示し、抗HIV療法を開始されるもトキシプラズマ脳膿瘍で永眠。
- 2003 当院健康管理センターで高 グロブリン血症を指摘された30代外国人男性のHIV陽性を確認。さらにその妻である20代日本人女性のHIV陽性を確認。
- 2004 上記HIV感染症女性の妊娠・出産。
PC肺炎で入院した40代男性がAIDSであることが判明。
- 2005 急性B型肝炎で入院した30代男性のHIV陽性が判明。
他院でアメーバ性腸炎で入院の際、HIV陽性を指摘された30代男性が紹介受診。
- 2006 アメーバ性腸炎で入院した30代男性のHIV陽性が判明。
他院でフォローされているHIV感染者(40代女性)が当院歯科を紹介受診。
- 2007 CMV髄膜炎で入院加療歴のある20代男性のHIV陽性が判明。
県の日曜検査でHIV陽性を指摘された50代男性が紹介受診。

広島市民病院のHIV感染症の診療経験(2)

現在(2007年8月)までの総診療 13人

- 入院 11件
(梅毒性肝炎、全身中毒疹、結核、薬物中毒、
出産、PC肺炎、急性B型肝炎、アメーバ性腸
炎、アメーバ性肝膿瘍、CMV髄膜炎)
- 手術 2件(脳室シャント術、帝王切開)
- 死亡 1人(病理解剖あり)

広島市民病院のHIV感染症の診療経験(3)

—かかわりを持った診療部門—

内科(血液、消化器、呼吸器、神経、内分泌)、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、歯科、未熟児センター、手術室、麻酔科、救急診療部、病理部、健康管理センター

HIV診療に関する研修等

- 院内
 - 院内感染対策研修会、医局研修会
 - 海外実地研修 院内報告会
 - HIV診療委員会
 - 院外
 - 拠点病院医療従事者海外実地研修
 - 看護師のためのエイズ看護研修
 - 中四国ブロック抗HIV薬服薬指導のための研修会
 - HIV/AIDS専門カウンセラー研修会
 - 日本エイズ学会
- など

中核拠点病院としての活動

県立広島病院との協力の下、

H.19.6.14.に

平成19年度広島県エイズ中核拠点病院等

連絡協議会 & 医療従事者等研修会を開催

「エイズ検査を勧めるコツ」

「PC肺炎の診断と治療」

「針刺し事故対策」 etc.

当院の現状 (まとめ)

- 診療経験数は最近2桁にのったところ。
- 経験数のわりには様々な経験が積んでいる。
各部門の理解が得られ、病院全体としてHIV
感染症例の受け入れ体制には問題がない。
(ただし、結核や長期間の寝たきり症例などは
難しい。)
- 熱心に取り組んでいるスタッフに恵まれている。
- 広島大学病院・県立広島病院との連携の下、
院内ならびに地域のHIV診療水準向上に努
めている。